

城山のホルトノキの衰弱・枯死の原因について

- 植物病原細菌ファイトプラズマ感染によるホルトノキ萎黄病の可能性 -

城山のホルトノキは、ホルトノキが「市の木」として制定された理由となっているほか、「とくしま市民遺産」の中にも入れられているなど、市民に親しまれてきた。しかし、近年、城山のホルトノキの個体数は急激に減少し、大木は僅かしか残っていない。保全のために城山や徳島中央公園に植栽されたホルトノキも、その多くが枯死している。

近年、ホルトノキの衰弱・枯死が日本各地で起きており、その原因が植物病原細菌ファイトプラズマの感染によるホルトノキ萎黄病^{いおうびょう}であることが分かってきた。そこで、本研究は、城山や徳島中央公園のホルトノキの衰弱・枯死の原因が、ホルトノキ萎黄病であるかを検証することを目的として行った。実験方法は、すでに確立されている手法に従い、ホルトノキの葉から DNA を抽出し、病原細菌ファイトプラズマを PCR で増幅することで、葉の中にファイトプラズマが存在するかどうかを調査した。

実験の結果、城山では分析した 13 本全てのホルトノキからファイトプラズマ DNA の増幅産物が検出された。徳島中央公園のホルトノキについても分析した 14 本中 11 本でファイトプラズマ DNA が検出された。このように、ファイトプラズマの感染が広がっていることが明らかになり、近年の衰弱・枯死の原因がホルトノキ萎黄病^{いおうびょう}によるものである可能性が高まった。なお、今回確認されたファイトプラズマの DNA タイプは 1 種類であり、日本で見つかっている 2 種類のタイプのうちの 1 つと一致していた。

ホルトノキ萎黄病に罹病した木に対する治療法としては、抗生物質オキシテトラサイクリンの樹勢樹幹注入が有効であると報告されている。また、発病には土壌環境も関わっていると考えられている。このまま放置すれば城山のホルトノキは近いうちに完全に消失し、徳島市の貴重な財産が失われてしまうと予想され、このような治療による延命が早急に望まれる。そこで、9 月 24 日（水）10 時に、「徳島城址を愛する会」とともに徳島市公園緑地課に調査結果と対策要望書を提出する。

お問い合わせ先

部局名：ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部

責任者：佐藤 征弥

担当者：佐藤 征弥

電話番号：088-656-7222

メールアドレス：sato.masaya@tokushima-u.ac.jp